

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 65 号

平成25年3月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会（北里大学
海洋生命科学部同窓会）

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／海洋生命科学部旗	P. 1	就職ガイダンス	P. 5
全学同窓会講演会	P. 2	三水会関西地区懇親会	P. 6
三水会30周年記念パーティー	P. 3	漁火祭報告／MB号館竣工	P. 7
朝日田先生教授就任祝賀会	P. 4	掲示板／校歌	P. 8



海洋生命科学部棟（MB号館）新築を記念して寄贈される学部旗

第44回北里大学同窓会講演会を開催して

水産学部 水産食品学科28期 安孫子 信吾

平成24年11月3日(土)池袋サンシャインシティ文化会館において、海洋生命科学部同窓会・三水会の担当で、第44回北里大学同窓会講演会を開催しました。

今回の講演会は、「海洋は生命のみなもと」をテーマに、海洋生命科学部同窓会らしい話題の提供、そして、講演会後に開催した海洋生命科学部同窓会30周年記念事業の祝賀会と併せ、北里大学同窓生の交流と親睦を主眼に企画したものです。

講演は2題で、北里大学名誉教授の井田齊先生の「命のふるさと海とムカシウナギ」、NPO法人森は海の恋人理事長の畠山重篤先生の「森は海の恋人 人の心に木を植える」の順でご講演を賜りました。

2題とも非常に内容の濃い講演で、井田先生の講演後は「ムカシウナギの分類」など井田先生御専門の環境生態学への質問や、今年のような稚魚の生育場所や今年市場にうなぎが潤沢に流通するかなどといった身近な話題で盛り上がり、井田先生の壇上での振る舞

いを思い浮かべながら、三陸での講義を懐かしく思い出しました。また、畠山先生は家業の牡蠣養殖で、その全ての施設を2011年3月に発生した東日本大震災による津波にて失いましたが、長年活動続けてきた海の環境を守るには海に注ぐ川、その上流の森を守ることが漁業の再生であるとの信念のもと、自然環境を生かした地域づくりを進めています。講演後は参加者からの質問に身振り手振りを交えて熱くお答え下さる先生に対して次々と質問が寄せられ、関心の高さが感じられました。

約180名に及ぶ小学生から熟年層までの幅広い年齢の皆様に参加していたとき、本講演会の重要性を改めて認識すると共に、大変盛況な会とすることが出来ましたことに担当者一同ほっと胸を撫で下ろしました。

最後になりますが本講演会の企画運営にあたり多大なご協力を賜りました北里大学同窓会関係者の皆様、講師の井田先生、畠山先生、参加者の皆様に対して、この場を借りて厚くお礼申し上げます、今回の

講演会の報告に代えさせていただきます。ありがとうございます。



北里大学同窓会より長屋信博会長の挨拶



畠山重篤先生の講演



井田齊先生の講演

三水会創設30周年記念祝賀会に参加して

水産学部 FM29期 阿見彌 典子

平成24年11月3日、三水会創設30周年記念祝賀会が池袋サンシャイン水族館にて開催されました。私は当日、受付を担当していました。列ができるほど多くの参加者があり、とても盛大な祝賀会と予感しました。並びながら「久しぶりー!」「今、どうしているの?」と話は既に盛り上がっており、さっそく祝賀会がスタートしているという様子でした。



会場である池袋サンシャイン水族館は、2011年にリニューアルオープンしているためとても綺麗で、天空のオアシスというコンセプトの通りに、ゆったりとして落ち着いた空間でした。会場は間接照明で少し暗く、その中に青く照らし出された水槽がとても綺麗に浮かび上がっており、とても幻想的な雰囲気に含まれていました。そのような雰囲気の中、水槽の周りで子供たちが楽しそうに遊んでいるのがとても印象的でした。

祝賀会は、高橋明義三水会会長による開会挨拶に続き、緒方武比古学部長による乾杯の御発声でスタートしました。歓談中には、先に行われていました、北里大学同窓会講演で講演してくださいました北里大学名誉教授の井田齊先生と、NPO法人森は海の恋人理事長の畠山重篤先生の紹介、そしてたくさんの方々が披露されました。受付が落ち着いた後、会場の様子を見に行ってみると、あちこちで話が盛り上がっており、人の隙間を縫うようにしてやっと通れる感じでした。また、水槽を眺めな



がら水槽内の魚についての話で盛り上がっている方たちや、学生時代に研究材料としていた生物を水槽内に発見し、そこから卒業論文テーマの話に発展している会話を聞きながら、さすが水産学部(現海洋生命科学部)出身!と妙に楽しい気分となり、池袋サンシャイン水族館は三水会創設30周年記念祝賀会にぴったりの会場だと感じました。

肩を組み円陣を組んで水産放浪歌をみなさんが合唱しているのを聞きながら、一瞬で気持ちはず学生時代に戻るものだと感じるのと同時に、三水会の歴史と存在する意味を改めて感じました。

内藤文隆三水会副会長による中締めがあり、2時間の祝賀会が終了しました。しかし、参加者の方たちの話は尽きることはなく、「申し訳ありませんが、終了時刻となっておりますので・・・」と何度も繰り返されるアナウンスを聞きながら、祝賀会は大成功だったと実感しました。

最後になりますが、30周年記念祝賀会の企画運営をされた北里大学同窓会関係者の皆様に感謝するとともに、楽しく貴重な時間を過ごさせていただいたことに感謝申し上げます。



「朝日田卓教授就任祝いを終えて」



昨年十月十四日(日)に東京五反田「ホテルゆうぼうと」において「朝日田先生の教授就任を祝う会」を開催いたしました。

この発端は井田齊名誉教授からの一言、「朝日田先生の教授就任祝いを盛大にやれ」から始まりました。

会場探しは主に日曜日、終わったら飲み会と三陸育ちの悪い癖？が抜けないうまま、飲んではどうすれば人が集まるか、この「就任祝い」に箔をつけるにはどうすれば良いか、酒の勢いもあって好き勝手なことを話し合っていました。そんな折、浦浜の元田中アパートの大家さんで現在大船渡市災害復興局集団移転課に勤務されています田中聖一さんと連絡が取れるとの話になり、話を伺いましたところ、大船渡市役所内には「海洋生命科学部三陸キャンパスの早期再開」を目的とした「北里大学再開推進室」なるものがあるとの事。だめもとで大船渡市役所から本会へご

水産増殖学科 12期 越川成二

参加いただけないかを聞いてもらったところ、驚いたことに市長自ら参加しすとの返事をいただいていたいました。

それからというものの、受け入れ側もそれなりの規模にしないでとは、三水会報での呼びかけ、ネットでの呼びかけ、電話作戦と先輩・後輩を巻き込んで参加者を募りました。

当日、120名の予定で会場を準備していたのですが、予想を上回る人数の参加をいただき、総勢130名を超える会となりました。

遠方は山口県、1期生から現役学生まで、また一般参加者として大船渡市長戸田公明様・大船渡市企画政策部長新沼秀人様、それに田中聖



一様、他幅広い方々に参加いただき、朝日田教授の人望の厚さを垣間見た思いがしました。十一時半には受付を開始し、

十二時には予定通り開会、井田名誉教授の挨拶からはじまり万端滞りなく乾杯まで、その後は先輩・後輩、それぞれ旧知の友や恩師を見つけて酒も入り、話もだいぶ弾んでいるようでした。

中盤には朝日田教授による「東日本大震災」のときの苦労話をスライド映像とともに説明をいただきました。このときは歓談で声も聞き取れないくらいの会場が一変、静かになりあの忌まわしい「東日本大震災」直後の話や、体育館での避難所生活の話に一同、聞き入っていました。体育館での生活は大変不自由だったそうですが、そこは三陸育ち、皆が協力して、たくましく避難所生活を送ったとの報告には心に温かいものを感じました。

その後、大船渡市長による「大船渡復興に向けて」のお話を、資料を添えてご説明いただき、抽選会、水産放浪歌、閉会と予定時間を30分ほどオーバーして散会となりました。

この会の成功はひとえに開催にご協力をいただきました先輩・後輩、大船渡市役所の田中聖一様、そして参加いただきました大勢の皆様によるものと、この場を借りてお礼申し上げます。

最後になりますが、「朝日田先生の教授就任を祝う会」への参加を楽しみにしていました朝日田教授と同期

入学でエコファーム代表、中村(旧姓・府録)義幸さんが参加もかなわず、一月一九日逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。



就職ガイダンスに参加して：

F A 23期 北吉 直子

迷路のような相模キャンパスの一歩奥に、真新しい校舎が建てられていました。真っ白な壁と長い廊下。まるで映画に出てくる近未来の研究所のようで、私にとってはどこか落ち着かない場所のように思われました。しかし、変わらない先生方のお顔を拝見しているうちに、いつの間にか戸惑いが消えていました。校舎に入ると水族館があったり、屋内で淡水魚も海水魚も飼育できる大きな部屋があったりと、充実した設備が整えられていました。先生方は「まだまだ使いにくい・・・」とこぼしておられました。と、さえずり落ちてきたように見受けられました。

ここ数年、就職ガイダンスに参加させていたのですが、いつになくとても柔らかな雰囲気の中、お話をすることができました。就職活動をするには不便な三陸と違い、便利の良い相模原においては、様々な説明会に容易に参加することができず。また、就職をサポートしてくれるセミナーに参加することだててできません。上手くエントリーし面接を受ける・・・学生たちは、ある程度の情報をすでに持っているようでした。そこで今回、私はできるだけ具体的に話を進めることにしたのです。

学生達に特に伝えたかったのは、

「採用側の気持ちを分析する事」。採用側が何を知らたいのか、何を望んでいるのかを考える。就職する事が難しいと言われ続けている昨今、悩みは学生だけでなく採用する企業側にも広がっています。そんな企業のニーズを理解すれば対策も立てやすく、目標もはっきりしてくると思われず。自分をどう売り込むのかをよく考えねばなりません。と、そんな話をしているときに、ふとした質問から三陸で暮らしたことのない学年であることに気づきました。ついに・・・わかつてはいても複雑な感じが渦巻きました。そして同時に危機感を覚えました。

これまで北里大学の水産学部は三陸で育まれた行動力や人間性が売りの一つだったわけですが、その手の売り込み方ができないわけです。今後はますます戦略的に、他の学校とはパツクグラウンドが違うことを強調し、特色を打ち出さなくてはなりません。これをお読みの卒業生のみならず！どうかお勤めの企業で、北里大学の海洋生命科学部は、三陸で育った水産学部と決して変わらぬスピリッツを持っていることを宣伝して下さい！今回、就職ガイダンスに参加し、改めて卒業生としてまた社会人としてサポートしたと強く感じました。彼らが抱える不安が少しでも希望に変わるよう、お手伝いができればと思いました。

「海洋生命科学部就職ガイダンス」に参加して

F F 18期 洲崎 幹雄

寒さもようやく衰えはじめましたが、皆様ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

小生は、平成元年に水産学部に入學し平成5年水産食品化学研究室卒業の洲崎幹雄と申します。現在日本水産㈱にて業務用食材の営業として震災の10日前より仙台で勤務しております。学生時代同様、東北の方々に大変お世話になっております。震災後、多くの皆様方にご支援、お心遣いを賜りましたこと、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

さて、この度三水会理事の弊社社員小林博子先輩にお声掛けいただき、海洋生命科学部就職ガイダンスに参加させていただきました。実は相模原キャンパスに行くのは「どんぱん」以来20年振りとなり、あまりの変わりように大変驚きました。海洋生命科学部の校舎も新しく斬新な建物でアクアリウムもありビックリした次第です。

今回世代のギャップに少し不安を抱いておりましたが、先輩に会えるのを一番楽しみにしておりました。まず一番嬉しかったことは、海洋生

命科学部の校舎に入り、一番最初にお会いした学生が気持ちよく「こんにちは」と小生より先に明るく挨拶いただけました事です。小生も偉そうに人前で話せる身分ではないのですが、学生には真剣に話を聞いていたことながら、つたない話し方でしたので反省しておりますが、人懐っこさや素直さや真面目なところが伝統と思っておりますので、伝統は変わらないと安心した次第です。

ただ今の3年生は三陸を経験出来ずに卒業するため少し可哀想だなと感じました。やはり人生の中で、三陸の生活は言葉以上の経験であり正に「心の故郷」だからです。そう言った意味でも、三陸で学べない学生を卒業生がフォローしていく責任があると感じました。また卒業生として改めて活躍しなければと強く感じた次第です。今回の素晴らしい機会を作ってくださいました大学関係者、三水会の皆様方に改めて心より感謝御礼申し上げます。皆様のご健康とご多幸、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。これからもご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。末筆となりますが、東北復興のために、是非、東北観光をお願い致します。

三水会関西地区懇親会

FA2期 田代 茂年

平成25年1月27日(日)12時30分より、新阪急ホテル地下のバー「リード」にて無事、開催いたしました。

当初、昨年の9月30日開催とし、会報やホームページにて案内して頂き、準備万端整えておりましたところ、台風17号の直撃により、前日止む無く中止としました。

これで今年度は、見送りとか凹んでいたのですが、11月3日の30周年記念大会の大成功により、井田先生、高橋会長、長谷川前会長からの激励や源さん、北吉さんなど有志の方の協力のおかげで、1月27日の開催に至った訳です。今回も近畿北部は大雪に見舞われ、新幹線も遅れが生じるものでありました。さらに、前々日の1月25日には元水族病理学研究室教授小林正典先生逝去の訃報を受け、茫然自失、何も考えられない状態でした。

参加人員は、35名で2、37期と幅広く、卒業生の中で親子以上の年の差があり、37期生を紹介しましたところ、自然と拍手が起こり「よく来てくれた。」「今後も頼むぞ！」の声がかかりました。

高橋会長は、三陸ならびに海洋

生命科学部の近況について報告され、なかなか進まない復興と三陸を知らない学生について話され、今後の学部運営の難しさを感じました。加えて、学生の就職について、OBの更なる支援・協力の強い要請がありました。

井田先生からは、パラオでの「ムカシウナギ」の発見とその生態について、貴重な動画や美しい写真とともに興味深い解説をされ、学生時代にタイムスリップしたような錯覚を覚える楽しいご講演でありました。先生から最新著書のプレゼントもあり、くじ引き大会も盛り上り、良い懇親会となりました。やはり、同期が集まると話も尽きず、2時間の本会だけでは不足で、井田先生を交えての2次会、そのあと3次会、4次会までやった猛者もいました。

参加できなかったOBの方々、はがきやメールでの温かい応援ありがとうございました。

最後に、関西2府4県で会員数が500名を超えるに至り、継続的な卒業生の交流を図るため、「三水会関西(仮称)」の立ち上げをこの7月に行う計画にしております。改めて案内申し上げますが、たくさんのご出席をお待ちしております。

以上



関西地区懇親会に参加の皆様



二次会の会場より



北里祭「本部企画 漁火課」 として参加

北里大学北里祭実行委員会

本部企画漁火課

課長 MB10035

小川 修寛

東日本大震災から1年と6ヶ月
が経ちました。

漁火課は平成24年11月3日
(土)、4日(日)に行われた
第50回北里大学北里祭「50th
Anniversary」を迎えた北里祭の金
婚式に参加させていただきました。
漁火課は昨年の漁火委員会が第50
回北里大学北里祭実行委員会に所
属した団体名です。

今年は昨年漁火ブースで好評で
あったイカとツブガイ串の炭火
焼、三陸地方の特産物を扱った物
産展、加えて新企画の貝殻を集め
て作った貝殻展を出店しました。
当日は行列が途切れることはな
く、予想外の人気に驚きを感じま
した。

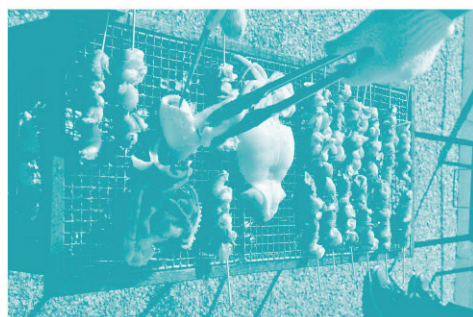
来場者の方々には一年生による
手書きのポスターや手書きの地域
の文化を掲載し三陸に興味を持っ
ていただきました。さらに、海洋
生命科学部の学生で構成された漁
火課は前団体の漁火委員会の意志
を受け継ぎ、売り上げの利益を岩
手県大船渡市役所に義援金として

寄付させていただきました。
最後に、この度漁火課の活動に
協力していただいた団体・職員の
皆様へこの場を借りてお礼申し上
げます。

以上



物産展の様子。一番右側は「越喜来漁協のわかめ」



M B号館竣工

FA8期 内藤 文隆

海洋生命科学部は東日本大震災
の影響で三陸キャンパスから相模
原キャンパスへ拠点を移して1年
半、2012年9月から新校舎M
B号館で新たなスタートを切りま
した。2012年8月に無事竣工
を迎えた新校舎は海洋生命科学部
の研究室、講義室、学生実験室な
どをすべておさめた5階建ての建
物です。

一階には事務室、研究用の水槽
室を配し、二階には大講義室2
室、小講義室2室の他、図書閲覧・
自習室と演習室を設けています。
三階には生物実験室と化学実験室
を配し、2年生、3年生の学生実
験を行っています。三階の一部と
四階、五階は各研究室スペースと
なっており、先生方の研究と4年
生の卒業論文研究のための活動拠
点となっています。

また、今年の8月まで研究室と
いっしょにクレセント棟で活動し
ていた「アクアリウムラボ」(ミニ
水族館)がいよいよ引越越しを済
ませ、MB号館一階で本格的に新
装オープンにこぎつけました。3
メートル水槽に群れで泳ぐヤマメ
やウグイ、最近とても人気の高い
クラゲなどが展示されています。

ここでは研究室で扱っている珍し
い海洋生物も見ることが出来ます。
特にJAMSTECや新江ノ島水
族館からの協力を頂いて、展示飼
育されている貴重な深海の生物な
ども身近に見ることが出来ます。

この「アクアリウムラボ」の運
営は学生が主体になって行われて
おり、3メートルの大型水槽をは
じめ約半分の展示は学生の企画に
よるものです。飼育についても学
芸員志望の学生をはじめ自主的に
参加している学生たちによって管
理されています。学部を問わず学
内の学生、教職員は自由に見学で
きます。また、学外の方や卒業生
でも関心のある方はMB号館一階
の事務室で受付をしていただけれ
ばどなたでも見学していただくこ
とができます。(一般公開は土日
祝祭日を除く、10時〜16時となっ
ています。)



“ 掲 示 板 ”

■ 平成25年度三水会定期総会のご案内

下記により平成25年度三水会定期総会を開催します。

理事、代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：平成25年5月18日（土）午後6時～（受付5時30分）

開催場所：北里大学白金キャンパス 薬学部1号館5階1507教室

（注）：開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は事務局までご確認ください。

- 議 事：1、平成24年度事業報告及び収支決算報告
2、平成25年度事業計画及び収支予算
3、その他

■ 住所不明会員について

事務局では会報をお届けするため、登録データ変更はがき、三水会ホームページ、電話、ファクスなどより、住所等の変更を受けております。もし、お知り合いの同窓生で近頃会報が届いていない方をご存知であれば、ぜひ御一報くださるようにお伝え願います。

訃 報

小林正典先生83歳、元北里大学水産学部水族病理学研究室教授が平成25年1月25日、肺炎のため逝去されました、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昭和48年初代水族病理学研究室教授として就任され、24年間教鞭を執られました。

退職後は故郷、信州安曇野に居住して、地域活動にご尽力され、また、母校旧制松本高等学校の同窓会活動には精力的に参加されました。そして、私達卒業生の来訪には叱咤激励を送りいただいた日々でした。心より感謝と哀悼の意をささげます。（菩提寺は長野県諏訪郡富士見町落合2614 鹿島山：三光寺）

北里大学校歌『生命の北辰』

作詞：黛 まどか
作曲・編曲：千住 明

紺青こんじょう尽つくくす天穹てんきゅうに ひとつの星を探たづねごと
白金しろかねの地にひたすらに 学祖がくそが追求もとめし医の真理
安寧あんねいの世を築たくため
雷いかずちのごと 貫ついて
拓ひらきし道を 歩あむ我らぞ

この学び舎がやに励いたみしを 風雪ふうせつに堪たえいつの日か
月桂冠げつかかんを戴いただてて 未来みらいにつないでゆく叡智
その絶巔ぜつたんを極ためんと
切磋せつぽ琢磨たくまの 実学じつがくを
世よに捧たげるを 報恩ほうおんとせり

暁あかつき 告つげる産声うぶごゑは 牧場まきばを渡わたる風かぜに乗り
白波しらかぜ立つるわだつみの 底そこにひしめく 命いのち美うし
雨あめに照ある日に 虹にじかけて
天地あめとち統すべて 揺ゆるぎなし
ああ北里きたりは 耀あく北辰
朝あなたなに とこしえに
あまたの星ほしを従したがえて
ああ北里きたりは 生命いのちの北辰 生命いのちの北辰

— 校歌の音源、校歌完成披露発表会映像は三水会ホームページでご覧になれます —

編集後記

今年の冬は早くから大雪、寒波の襲来があり、関東地方でも大きな混乱がありました。雪国にしてみれば簡単な除雪で済むような積雪でも、不慣れな都会では交通機関に大きな影響が出ました。とはいえ毎年のように繰り返しているようにも思える混乱に、自然に学ぶことをしなくなった都市生活を象徴しているようにも思えるのは私だけでしょうか。自然科学を学んできた私達三水会員は都市部の混乱をよそに、自然界から学ぶことを今後も続けていきたいと思います。